

番号	10309
効用の種類	ふれあいによる生理・心理的効用
タイトル	幼少期の植物の栽培体験別に見た自然体験、家庭の養育態度、そして成長後の社会性との関連
概 容	<p>幼児期の植物の栽培体験と自然体験、家庭で受けた養育態度と成長した現在の社会性との関連を、アンケート調査により検討する。アンケート結果から、栽培経験の多いグループ(44%)と、少ないグループ(56%)に分けた。家庭で受けた養育態度との関係では、「受容する態度」、「教育的配慮」、「礼儀や自立に向けたしつけ」の平均値が、栽培体験の多いグループの方が明らかに高かった。さらに、社会性の基盤とみられている共感との関係では、「視点取得」が、対人関係の構築に寄与するとみられている社会的スキルとの関係では、「問題解決」、「コミュニケーションスキル」、「トラブル処理」すべてで栽培体験の多いグループの平均点が高かった。以上から、幼少期に植物の栽培を多くした人は、大人になった現在では、相手の立場を重んじる姿勢を持ち、対人関係においても関係志向性の高い人が多いと見られた。</p>
内 容	<p>(目的) 幼児教育における園芸の重要性は長年提唱され認識されてきたが、その教育的な効果について実証されていない場面も見られる。本稿では、幼い頃の植物の栽培体験と自然体験、家庭で受けた養育態度、そして成長した現在の社会性との関連を調査した。</p> <p>(調査方法) 九州圏内の大学生と、幼稚園、保育所の園児の母親を対象にアンケートを行った。大学生 446 名のうち 426 名(男性 162 名、女性 264 名)、(回答率 96%)、339 名の母親のうち 227 名(回答率 67%)から回答があり、合計 653 名について検討した。</p> <p>(結果および考察) 幼少期の植物の栽培体験を頻度別から、「よくした」と「ときどきした」を植物の栽培体験が多いグループ、「たまにした」と「まったくしなかった」を植物の栽培体験が少ないグループとすると、栽培体験が多いグループは 44%、栽培体験が少ないグループは 56%であった。 12 項目の自然とかかわる遊びや飼育との関係(第 1 表)をみると、栽培体験が多いグループがすべての項目で栽培体験が少ないグループより平均値が高かった。 家庭で受けた養育態度との関係では、良い成績をとるように言われたなど「学業への干渉」にグループ差はみられなかったが、話をよく聞いてくれた、楽しませてくれたなどの「受容する態度」、美術館や観察会に連れて行ってしてくれたなど「教育的配慮」、自分で考えて行動するように言われたなどの「礼儀や自立に向けたしつけ」の平均値は栽培体験が多いグループの方が明らかに高かった(第 1 図)。</p>

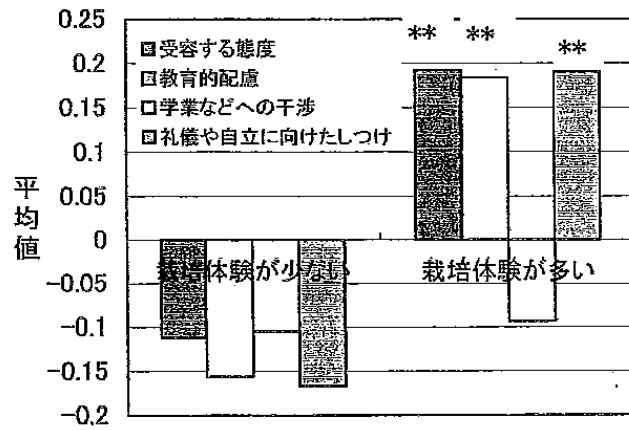
社会性の基盤と考えられている共感(sympathy)との関係(第2図)では、非難する前に自分がその人の立場になって考えるなどの「視点取得」で栽培体験が多いグループの平均値が高く、対人関係の構築に寄与するとみられる社会的スキルとの関係(第3図)では、「問題解決」、「コミュニケーションスキル」、「トラブル処理」すべてで栽培体験が多いグループの平均値が高かった。以上から、幼少期に植物の栽培を多く体験した人は、家庭では受容され、礼儀や自立のためのしつけを受け、また社会教育施設の利用や自然とかかわる体験も多かった(第1表、第1図)。大学生や母親となった現在では、相手の立場を重んじる姿勢を持ち(第2図)、対人関係においても関係志向の高い人が多いとみられた(第3図)。

第1表. 幼少期の植物の栽培体験別にみた自然とかかわる遊びや飼育の平均値.

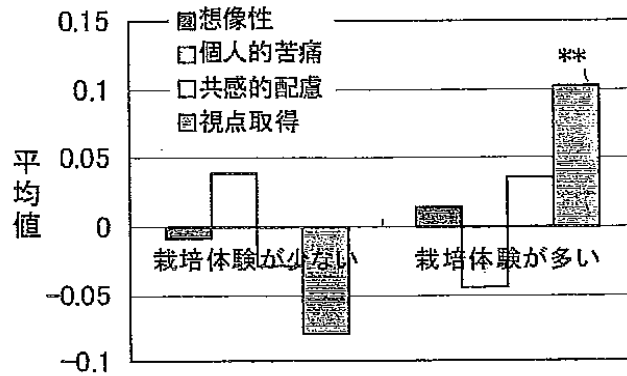
自然とかかわる遊びや飼育	全体		差
	栽培体験多い	栽培体験少ない	
草花遊び	3.2	2.4	0.8**
野山遊び	3.1	2.5	0.6**
昆虫採集	2.8	2.2	0.6**
哺乳類・昆虫類以外の動物の飼育	2.7	2.1	0.6**
昆虫の飼育	2.4	1.8	0.6**
哺乳類の飼育	2.8	2.3	0.5**
ハイキング・登山	2.4	1.9	0.5**
クラフト	2.3	1.8	0.5**
魚釣り・沢遊び	2.6	2.2	0.4**
ままごと・かくれんぼ	3.7	3.3	0.4**
ごっこ遊び・基地づくり	3.1	2.8	0.3**
キャンプ	2.2	1.9	0.3**

(注)設問は4件法 1:まったくしていない、2:たまにした、3:ときどきした、4:よくした.

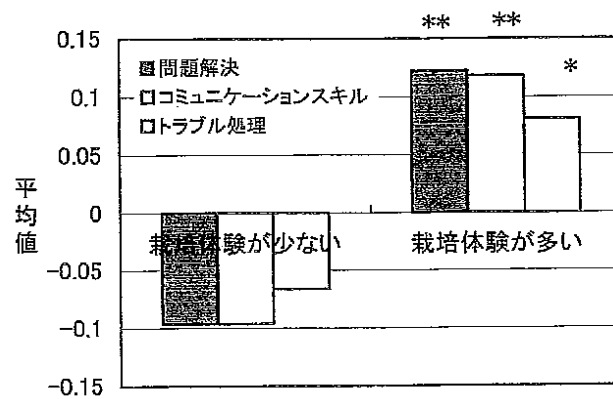
** : 1%水準で有意差.



第1図. 植物の栽培体験と家庭の養育態度との関係.



第2図. 植物の栽培体験と共感との関係.



第3図. 植物の栽培体験と社会的スキルとの関係.

出典

人間・植物関係学会雑誌 第9巻 別冊 : 42-43 .2009年 山本俊光、森啓一郎、松尾英輔

備考